

ハッピー 通信



本部 〒890-0032 鹿児島市西陵1丁目8-7 TEL 099-282-7408 FAX 099-296-1733 (事務局 TEL 099-283-6120)



<書・絵：スクラムっ子>

旧年中はNPO法人ハッピーの活動にご支援ご協力を賜り心より御礼申上げます。

本年も皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は、気候変動等により農作物被害、円安や人件費・輸送費が軒並みに上昇し、結果として値上げが相次ぎ、様々な面で負担を強いられる年でもありました。

福祉事業に於いても、人材不足や給付費減少等多くの課題を抱えており、同じく厳しい状況もありました。当法人も例外ではありません。このような状況下、絶えず全力で子どもたちの支援に取り組んでくださっている職員の方々、並びに当法人をご支援いただいている皆様には深く感謝いたしております。また、餅つきや夏祭り、グループホームにおいては地域の運動会にご招待いただく等、少しづつではありますが地域の方々との繋がりも深まりつつあります。

さて、二〇二六年は当法人にとって設立二〇周年という節目の年を迎えます。発足当初から「子どもや仲間を真ん中に、親・職員・関係者誰もが育ち合える関係を大切に」を理念に日々努力して参りました。この二〇年という歳月の中で、子どもたちはそれぞれに大きく成長してきました。きっとこれから先も、一步一步前へ進んで行ってくれることと思っています。そして、親としても共に歩み育てて頂きましたことを有り難く存じます。

本年は、これまで以上に不安定な社会情勢が続くかと思われます。そのような中でも子どもたちが地域の中で笑顔を絶やさず、安心・安全な生活が送れるように切実に願っています。そのためにも、このNPO法人設立二〇年という節目を迎えるにあたり心機一転気持ちを新たに今ある問題を解決し、今後の方向性を定め、法人の発展のために努めて参ります。

つきましては、当法人の活動にご理解いただき、更なる皆様のご支援ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます

未来への学びときょうされん全国大会 in 奈良に参加して

(開催日： 10月17日～18日 場所： 奈良県)

この度、全国の仲間たちや福祉施設職員、関係者が一堂に会した「きょうされん全国大会」に参加しました。今回の研修で得た学びは、私たちの日々の支援活動、そして施設の「未来のあり方」を考える上で大変貴重なものでした。

世界情勢から働く支援の最前線まで、私が学んだ三つの重要なテーマをご報告します。



I. 「平和と福祉」：生存の基盤を守るために

現在の世界では紛争や戦争が続き、平和の脆さを痛感し、大会で最も強く印象に残ったのは、「平和」こそが、障害のある方々や子ども、高齢者といった社会的に弱い立場の人々にとっての「生存の基盤」であるという点です。

「戦後80年、大砲かバターか」

歴史を振り返ると、戦争下では「価値無き人」として、また、「経済的負担を軽減する為」として障害者が20万人以上国(ナチスドイツのT4作戦)によって殺害された記録があります。「戦争に貢献出来る事」が人間の価値として重宝される社会になると生命や権利の危機が訪れる事になるということです。

福祉大国として有名なスウェーデンは中立国として200年以上戦争から遠ざかっており、スウェーデンは、福祉や教育、経済などの発展に力を注いでいると思います。

「大砲（軍備費）かバター（社会保障費）」の選択のうち、ナチスドイツは大砲を選び、スウェーデンはバターを選んだ！！私たちが幸せに豊かに暮らせるのはどちらの選択をした時なのか考える機会になりました。

選択の例	優先したもの	結果が示す意味
ナチスドイツ	大砲（軍備費）	生命や権利が軽視され、「価値なき人」が生まれてしまう社会。
スウェーデン	バター（社会保障費）	200年以上戦争から遠ざかり、福祉・教育・経済を発展させた豊かな社会。

「大砲かバターか」という問いは、私たち自身の幸せな暮らし、そして私たちが目指す社会の姿を考える上で、非常に重いテーマだと感じています。私は「バター（社会保障）」を選び続けることこそ、地域の安全と安心につながると思いました。

2. 福祉をめぐる「世界と日本」の情勢

私たちは、地域の施設運営を通じて世界や日本の大きな流れと無関係ではありません。

<世界の動向と福祉>

- アメリカの国連への拠出金削減により、国連の機能が弱体化しています。
- この影響は、「障害者権利条約委員会」の会議や審議回数の減少にも及んでいます。
- 世界全体で、障害者の権利を保障する国際的な枠組みが弱まりかねないという危機感が高まっています。



<日本の福祉が抱える深刻な課題>

現在の日本の福祉分野では、「人手不足」が最も深刻な課題です。

- 要因： 福祉職員の給与が、他業種の平均と比べて3分の2程度と低い水準にあります。
- 結果： 新しい人材の確保や、経験豊かな職員の継続的な勤務が困難になっています。

職員の待遇が低いことは、単に人材確保の問題だけでなく、「支援の対象となる利用者(障害者や高齢者等)の権利と生活の質」が軽視されることにつながりかねません。安定した支援を提供するためにも、職員が安心して働ける環境の確保は喫緊の課題です。

3. 「働く」支援の最前線：専門性の融合

「働く」をテーマにした分科会では、利用者の方々がやりがいや自信を持って働くための、2つの先進的な実践事例が報告されました。共通していたのは「福祉以外の専門性との連携」です。

実践事業所	連携した専門性	支援の工夫と成果
岐阜県 社会福祉法人 いぶき福祉会	プロデューサー（ブランディング、ECサイト運営）	無理なく商品を作ることが出来るようスケジュールを組める。無理なくできる作業を選び、お客様からの「ありがとう」から「喜び」を実感できる仕組み作り。
滋賀県 社会福祉法人 蒲生野会 プリズム・エクレ	プロのパティシエ	「福祉の冠を使わない」商品づくり、店づくり。利用者Aさんの得意・苦手を整理し、出勤時間や仕事内容を工夫。給料アップにより、利用者Aさんが頼りにされていることを実感し、モチベーションが向上。

<大切にしたい支援の基本>

これらの報告から、私たちが再認識した支援の基本は以下の通りです。

1. 「なかま理解」の徹底：利用者の方が「何に喜びを感じるのか（スキルアップ、お客様の笑顔、工賃のアップなど）」を深く理解すること。
2. 専門性の融合：支援員の「知識と経験」に、デザイナーやパティシエといった「福祉以外の専門知識」を組み合わせること。



結びに：学ぶことの重要性を改めて感じる

今回の全国大会は、世界と日本的情勢を知り、私たちの支援の「基本」と「可能性」を再確認する貴重な機会となりました。

日々のなかま達との活動が充実したものになり、より意義のあるものにするための実践の学び、そして制度や情勢を理解し、なかまや家族、福祉施設関係者などの権利や人生が保障され、誰しもが豊かに暮らせる社会を目指す学びがありました。

きょうされんでは、施設の存続、スタッフの確保、支援の充実、そして人権の保障を目指した運動が盛んです。この学びを通じて、「少し油断すると、福祉がないがしろにされる」という強い危機感を持ちました。

今ある施設やスタッフが、ある日突然なくなってしまうことのないよう、私たち職員一同、社会情勢を学び続け、声を上げ、行動していくことの重要性を強く感じました。（文責：大石）



空腹が一番のごちそう



今日の給食な～に？

小さな一軒家のどんぐりの療育では、台所でお昼ご飯を作っています。どんぐりの毎日おいしくて温かい給食に心も体も満たされています♪朝の会で給食のメニューを聞きに行く時には、子ども達の目はキラキラと輝き、台所に向かって一目散！自分の好きなメニューがあると飛び跳ねて喜ぶ姿や楽しみなデザートがない日は残念さを身体で表現する姿など一人ひとり、様々な反応です。外遊びから帰ってくると、どんぐりの周りにはいい匂いが！それにつられて子ども達の足も速くなります！準備が終わると「僕のご飯まだ～？」と催促の声も聞こえます！目の前の給食を見ながら「おいしそう！」「早く食べたい！！」とワクワクしている子ども達です。

おいしく、楽しく食べよう！

子どもたちにとっての食事とは、心と体の成長を支える大事な時間だと言われています。見た目や匂いなどで五感を刺激したり、大人や友達と一緒にテーブルを囲み、「おいしいね！」と言い合いながら食べたりすることで、“食事は楽しいこと”を感じもらうことが大事です。私たちは、給食のスタッフや保護者の方と共有して1人ひとりに合わせた量や大きさ、盛り付けの仕方などを工夫しています。そうすることで“自分で食べられた！”という嬉しさを感じられ、褒められることでさらに気持ちが高まるのではと思います。また、無理強いして食べさせません。子どもに対して『何でもおいしく食べてほしい！』という願いはあるのですが、その願いが強すぎてしまうと、無理強いすることで“食事＝嫌な物”になってしまうからです。私自信は、小さい頃から好き嫌いが多く、食材自体が嫌な物、調理の仕方によって食べられる物・食べられない物があるなど、今考えると偏食気味だったなと思います。

- ・ハンバーグ
- ・春雨サラダ
- ・あおさ汁
- ・ごはん



量や大きさ、汁物は具あり・なしなどの工夫をしています



小学生の頃の給食は、苦手な物がある日は昼休みに入っても食べ終わらず、いつも残って食べていたので、給食の時間はあまり好きではありませんでした。今も好き嫌いは多いですが、子どもたちとおしゃべりしながら食べたり、「見て！これ全部食べた！」と嬉しそうに完食したことを伝えてくれたりする子どもたちを見ていると、私も給食の時間が楽しくなります♪



空腹が一番のごちそう

私と同じように食べられる物が少なかつたり、環境の変化によって食べられなかつたりする子もいます。最初は、緊張していたり家と味付けが違ったり、中には初めて見る物もあったりしてなかなか手が伸びない姿もあります。しかし、周りがワイワイ楽しい雰囲気で食べていたり、大好きな大人や友達がおいしそうに食べているところを見て、“なんだろう？”と気になって触り、また数日経つと今度は口に付け、さらに数日経つと食べられたりと少しづつ変わってきます。そういう姿を見て、無理強いするのではなく、その子のペースに合わせて『待つ』ことや楽しい雰囲気を作ることの大切さを感じています。また、そういう子たちもたくさん体を動かして遊ぶことで、空腹を感じいつもより食べてくれることもあります。『空腹が一番のごちそう』と言われているように、遊びを通して心も体も解放されることで自然と空腹になるのだと思いました。よく遊んで、よく食べて、よく出して、よく寝て！そんな生活のリズムの心地よさの中で子どもって大きくなるんだな～。そんな毎日の生活（療育）を大切にしたいと思います。（文責：日高）

子育てサポートどんぐり 神田階子

ハッピーで働くことになったきっかけ

私の子どもが幼い時、通園していた小さな認可外保育施設には「ゆっくり・しっかり・じぶんらしく」という理念が掲げられ、保育の中身もどこか昭和の温かさを感じる雰囲気がありました。「急がなくていいよ」「無理しなくていいよ」「自分のペースでいいよ」と寄り添ってくれる園の姿勢は、私にも子どもにもぴったり合っていました。大阪から嫁ぎ、夫の不在が多い中で鹿児島での3人の子育て。そんな私にとってこの園は実家のような温もりがあり園長先生は母のように頼れる存在でした。子育ての傍ら病院や福祉施設での仕事も経験しながら日々を過ごしていました。

そんな中、休職していた13年前に、“どんぐりキッチンの女神”ことNさんから「どんぐりで働いてみない?」と声をかけられました。Nさんの娘さんが園とどんぐりの両方を利用していたご縁もあり、園長先生と前迫さんが長年の友人であると知ったとき、不思議なつながりを感じたことを今でも覚えています。

「療育の世界は初めてで不安ですが、よろしくお願ひいたします!」そう伝えた私に前迫さんは、「看護師も療育者もみんな一緒だと思うのよ」と言葉をかけてくださいました。今振り返るとその言葉には「役割や立場は違っても子どもたちの成長を願う気持ちは同じ」という深いメッセージが込められていたのだと思います。この言葉に背中を押され「よし、ここでがんばってみよう」と決心しました。それが、ハッピーで働くことになった始まりです。

休日の過ごし方

ゆっくり朝ごはんを食べ、洗濯や片付けものんびり進めます。愛犬と遊んだりテレビやスマホを眺めたり完全オフの日があれば、早起きして、霧島や指宿、吹上方面にドライブや温泉に出かける日もあります。最近は霧島神宮と霧島ホテルの日帰り入浴に行き身も心もリフレッシュしてきました。霧島温泉市場のゆで卵とスイートコーンの地獄蒸しも最高でした。物産館めぐりも大好きです。

出身地の好きなところ

私の出身地・大阪の好きなところは、とにかく人が明るくて気さくなところです。初対面でも「どっからきたん?」「どないしたん?」と友達みたいに話しかけてくる人情の深さ(笑)。人と人との距離が近いところがまさに大阪らしい魅力です。街全体的にエネルギーで活気にあふれており、たこ焼きやお好み焼きの粉もんは安定の美味しさです。都会の便利さと人の温もりが両方そろった、ほんまにええところです!



仕事のモチベーション

働くうえで一番大切なのは、自分と家族の心と体が健康であること。家族の理解があってこそ、安心して仕事に向かえ、人にも優しくなります。

賃金はもちろん大きな原動力になりますが、子どもたちが私を必要としてくれる瞬間や、頑張っている姿、達成感を味わっている姿、そして「楽しい!うれしい!」と喜ぶ笑顔は、何ものにも代えがたいやりがいであります。大きな力になります。

そして非常勤ながら12年間どんぐりで働き続けているのは、「つながり」のおかげです。私を誘ってくれたNさんが給食作りを頑張っている姿、尊敬できる職員の存在、保護者との信頼関係。ここは自分を成長させてくれる場所であり、「誰かの役に立ちたい」という思いをずっと支えてくれています。それこそが、私のモチベーションです。





共に創るハッピーな未来に向けて！～地域の中で、育ち合う関係を目指して～

＜賛助会員のみなさまの支援に支えられ＞

NPO 法人ハッピーでは賛助会員のみなさまからの想いの支援を受けて、スマイルタイム（障害児・者と地域住民相互の助け合い事業）としての取り組みを重ねています。

地域の中で誰もが安心してひとりの人間として生活していくよう地域生活をサポートすることや、暮らしやすい町の創造と地域福祉の推進を図ることも法人として大事にしています。

今回はそんな取り組みの中で生まれたつながりの一部をご紹介します☆

☆NPO 法人ハッピーが“西陵”という地域を子ども達、なかま達の居場所として活動し始め25年が経とうとしています。民生委員の方々に声をかけていただき、地域の匿名の方が桜の樹を寄贈してくださる等、当初から暖かく地域に受け入れてもらいました。

年に1回開催される“西陵福祉のつどい”は地域の方々と協働し開催されています。当法人ではスクラムの子ども達の作品展示を通して地域の中で共にある存在を知ってもらおうと発信しています。このような場で相互に知り合うことが、安心して過ごし、暮らせる地域づくりに少しでもつながればと思っています。



＜西陵福祉のつどいの様子＞

☆長年にわたり、西陵地域の民生委員の方々がスクラムの運営に力を貸して下さっています。毎年11月の末に大掃除に来てください、活動室から庭の植木までピカピカにしてください。気持ちが整うと同時に、地域の方から見守られている安心感を再認識する大掃除もあります。

～賛助会員を募集しています～

【入会方法】振込用紙に、氏名、住所、電話番号、会費種別（個人/団体）をご記入の上、下記口座にお振込みください。その際に、誠に申し訳ありませんが、振り込み手数料をご負担くださいますようお願いいたします。

賛助会員 個人 一口 2000 円

団体 一口 10000 円（何口でも可）

＜口座名義＞ トクテイヒエイリカツドウホウジンハッピー
ダイヒョウシャ ヤマサキヒロノブ

＜口座番号＞ 鹿児島銀行 西陵支店

普通預金 口座番号 545722

お問い合わせ先 NPO 法人ハッピー 099-283-6120 (担当:有村)

この様に安心感を与え合える（いただくことが多いスクラムですが…☆）関係が増えていくことで地域が変わり、社会が変わりと変化していくのではないかと信じています。これまでも、そして、これからもこの関係を大事にしていきたいと思います。



＜西陵地域民生委員さん＞

☆直木町にあるグループホームは生活の場ではありますが、なかなか地域にとけ込む機会や場も少ない日々を過ごしていました。

少しでも地域に馴染んでいきたいと思い、休日は地域の温泉に出かけたりすることからスタートしました。今では徐々に地域の方とのかかわり合いも広がってきています。

そして、地域の公民館長さんと親しくなる中で夏祭りや



地域の運動会等にもご招待いただいているです。直木町の民生委員さんたちとの交流も今後深まっていく気配を感じます。

(文責:児玉)

